

ご協力ありがとうございます！

【5月の寄付品】原田明、樋口知佐子、馬場雄二、甘木白蟻、三宅正風

牟田千秋

【5月の新入会】エーワイ産業合同会社、中村保之、小林栄二

日本語のようす
農業研修生Aクラス4名は、みんなの日本語Ⅱで文法を学びながら、漢字の勉強も続けています。7月に日本語能力試験N5を受験しますが、最終的には12月にN4の合格を目指します。1週間に1回午後4コマの短い時間、今のところ睡魔におそわれることなく頑張っています。先日は、「～ように、～」(目的)を勉強しました。ある女性研修生が「部屋が臭くならないように、窓を開けています。」と文を作った際は、みんなで笑いました。一人一人の個性に助けられて、クラスが良い雰囲気になっています。それが勉強に励む力になることでしょう。

農業研修生Bクラス5名は、みんなの日本語Ⅰの勉強を続けています。こちらは、なかなか語彙や文法が定着しないフィジー、カンボジア研修生と、日頃の生活でも、どんどん語彙を増やしているインド、チベット、モンゴル研修生とかなり差があります。差がありますが、少ない語彙で理解しあったり、冗談を言い合ったりできる彼らのコミュニケーション能力には、いつも感心させられています。

インドネシア技能実習生5名は、6月2日に、約2ヶ月の講習を終えて、株式会社オークマに配属されます。この2ヶ月は日本語の勉強だけでなく、日本での生活、マナー、ルールなどに加え、交通安全教室、防災訓練、農業体験、書道体験なども行いました。毎日のショートスピーチのテーマは、学生時代、趣味、恋愛、ふるさとのことなど、多岐にわたり、質疑応答まで活発に行えました。ボランティア講師の方たちからは「よくできる」とお墨付きを頂いています。配属先では、方言など職場の人々が話す日本語で苦労すると思いますが、持ち前の積極性と明るさ、何より仲間の存在で乗り切ることでしょう。

まだまだこれから、がんばれ研修生、実習生！(立石考子)



博多どんたく出演

5月3日に博多どんたくの西新演舞台で研修生と技能実習生15名がインドネシア、ミャンマー、モンゴル、フィジー、インドのダンスを披露しました。研修生にとって初めてのステージだったので緊張していましたが、元気いっぱいに踊っていました。どんたくに出演するのは約3年ぶりで、当日は多くのお客様が来られました。(園田)

6月の予定

- 2日 長崎推進協議会総会
- 福岡リバティライオンズクラブ40周年記念式典
- 5日 若竹保育園田植え
- 8日 佐賀推進協議会総会
- 10日 脇山小学校田植え、オンライン報告会(14時～)
- 13日 アトリエ木下写真撮影会
- 17日 生松台ふれあい市
- 24日 大野城トウモロコ交流会
- 29日 鹿児島県推進協議会総会

体験農園だより

例年、5月にはお茶摘み大会を行っていますが、今年度は研修生の入所式と重なり、行うことができませんでした。楽しみにしていただいている方には大変申し訳ありません。代わりと言ってはなんですが、いちご狩りを実施いたしました。とてもたくさんの方にお越しいただき、1時間もせず、すべてのいちごを収穫されました。ほとんど終わりかけのいちごでしたが、おいしく召し上がっていただけたようよかったです。

6月は例年通りの田植え大会を予定しておりますが、早めの梅雨入りでどうなるかとハラハラしています。晴れることを皆様もお祈りしていただけると幸いです(飯川)

農場の研修風景

今年も早い梅雨入りとなりましたが、これからじめじめした日が続くと思うととても憂鬱になってきますね。

今は田植えのシーズンなので、雨が降ることは大変喜ばしいことなのですが、畑の管理について言うと今の季節はいろいろな野菜の花が開花する時期で、長雨が続くと実を結ばない心配が出てきます。

去年のオイスカのスイカはとても甘くて美味しいましたが、今年は美味しいスイカが食べられるかどうか不安になります。それでも梅雨の晴れ間を利用して、研修生たちは交配や管理作業を頑張っています。

彼らの努力が梅雨明け後に実を結んで、美味しい実りをたくさん与えてくれることを期待しつつ、雨の中でも草刈り作業などを行っています。(豊田)



まるごと!西日本



Instagram



facebook

発行:(公財)オイスカ西日本研修センター まるごと部
福岡市早良区小笠木 678-1
TEL(092)803-0311 FAX(092)803-0322
E-mail: oiscantc@oisca.org 検索 オイスカ西日本

2023年6月号

日頃の様子を更新中！是非チェックお願いします！



令和5年度 オイスカ海外研修生入所式

5月13日(土)、今年度の海外研修生入所式を執り行いました。今年は8ヶ国1地域より9名の研修生が2月末に入国し、2ヶ月間の基礎研修を終え、本格的な研修に入りました。入所式では、福岡県、福岡市をはじめ、多くの方にお越しいただきました。また今年初めて、東ティモール民主共和国の駐日特命全権大使もお見えになり、今回2人目となる自国の青年が西日本研修センターでどのような研修を受けるのかをしっかりとみていただきました。式典では、ご来賓の方々より祝辞をいただき、研修生代表として東ティモールのアグス氏が代表挨拶を行いました。懇親会では、研修生も多くの方々と歓談でき、多くの期待に応えるべくこれからの研修に取り組むことと思います。これからも彼らの成長を応援くださいませ。そして日本を理解し、日本のファンになって母国に貢献できる人材になってほしいと願います。(廣瀬)



オイスカ朝倉推進協議会年次総会

5月27日、朝倉市にてオイスカ朝倉推進協議会の年次総会が数年ぶりに開催されました。当日は、オイスカ研修生9名と技能実習生5名で参加し、推進協議会の皆さんと交流が出来ました。当日は秋重義信会長より前年度の事業報告並びに決算報告、また、今年度の行事予定と予算案を報告頂き、全会一致で承認されました。今回の総会では、会の若返りを目指し、役員人事交代案が発表され、中島秀樹(朝倉市議会議員)が会長職を継承されました。

今後、朝倉推進協議会とより密な連携をとり、研修生との交流を深めていければと思います。ありがとうございました。(廣瀬)



脇山小学校歓迎会

5月29日(月)に脇山小学校にて、4年ぶりとなる小学生の皆さんに企画した研修生歓迎会が行われました。研修生たちは民族衣装で参加。研修生入場後に小学校内にある「ほたる川」や脇山の伝統文化である「お田植え舞」について紹介していただきました。その後、研修生たちは自己紹介を行い、学年ごとにグループに分かれて交流を行いました。各学年でお手製のプレゼントを用意してくださっており、素敵なプレゼントをもらって研修生たちも嬉しそうになりました😊 6月10日(土)には「お田植え舞」が実施される予定です。研修生たちには小学生の皆さんと交流しながら脇山の伝統文化を体験してもらえたたらと思います。(飯川)



チプタグラル御一行 福岡視察研修

去る5月17日、インドネシアよりチプタグラルの住民をはじめとする一行17名が来福し、25日までの9日間、オイスカ西日本研修センターを拠点とした研修に参加しました。

ジャワ島西部の山岳部に所在するチプタグラルは、古来より伝わる伝統的な生活様式を守って生活するカセブハンの共同体の一つです。周辺一帯に広がる圧倒的な棚田と美しい自然、そして稻作を中心として形成されたカセブハンの文化に彩られたチプタグラルは、国内外の訪問者を魅了する一方、僻地に所在する地理的条件や主要作物であるお米の販売を禁じる独自のしきたりなどを背景として、脆弱な生活基盤や現金収入不足、環境汚染といった課題に直面しています。オイスカでは、チプタグラルが抱える様々な課題を解決するために、2020年3月より日本NGO連携無償資金協力を活用して「伝統的生活様式を守って生活する共同体の生活基盤の整備と生活環境の改善、生計向上の支援事業」に取り組んできました。

終了を8月に控えた同事業の総決算として実施された今回の訪日研修では、参加者は、西日本研修センターの農場や長崎県諫早市の種苗会社・八江農芸において、作物栽培の基礎や有機肥料の作り方等、農業一般について学んだほか、星野村や東峰村、浮羽町、そして山川町といったチプタグラルと地理的条件が似通った福岡県内の中山間地域を訪問し、各地で実施されている地場産業の育成や観光客誘致の手法といった村おこしの取り組みについても理解を深めました。また、5月20日にはオイスカの会員さんや周辺住民を研修センターに招き、チプタグラルの生活文化とその支援事業について紹介する報告会を開催しました。

各訪問先においては、わずかな時間の見学・滞在にもかかわらず、ありがたいことにしっかりとご準備・ご対応いただいたお陰で、研修終了に伴って行われた評価・振り返りでも、参加者からは本研修に対する肯定的な感想が相次ぎました。中でもとりわけ彼らの印象に残ったのは、各訪問先で対応して下さった方々や西日本研修センターのスタッフによる暖かい「おもてなし」だったようで、今回の研修が日本のよき理解者を育てる役割も果たしてくれたように感じました。尚、17名のうち2名は、同行者として一行への情報伝達やとりまとめ、通訳の役割を見事に果たしてくれた現地オイスカのインドネシア人スタッフでした。西日本研修センターのOBでもある彼らにとっては、久しぶりの里帰りともなった研修でした。

参加者たちが、今回の研修で得た知見やアイデアを現地における活動に生かし、支援事業終了後もチプタグラルの人々が自律的に活動を継続・発展していくよう、今後も見守っていきたいと考えています。

本研修にご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。(中垣)



活動報告会



棚田で記念撮影

きゅうでん米づくりプロジェクト「田植え大会」開催

5月27日(土)、清々しい晴天の下、きゅうでん米づくりプロジェクトのスタートとなる「田植え大会」に、ボランティアを含め約120名が参加して盛大に開催されました。

場所は毎年恒例の脇山地区の田んぼで行われ、100mほどの長さの田んぼに、参加者は横1列になって稻の苗を植えてきました。

参加者の中には泥んこになる子供の姿もありましたが、全員でがんばって最後まで苗を植えきることが出来ました。

参加者の皆さん、大変お疲れ様でした。(豊田)



会員さんご紹介 医療法人 原三信病院

◆オイスカへの入会のきっかけ◆

環境保全や持続可能な社会の実現を目指す活動に感銘を受け、1980年より参画し、43年目になりました。

◆オイスカへのメッセージ◆

いつも素晴らしい活動をされていることに感銘を受けます。私たちも、あなたの熱意や努力を見習い、負けずに頑張ろうと励まされています。今後も地域の発展や人々の幸福に貢献する活動を展開していくことを期待しています。心から応援しています。

◆原三信病院の紹介◆

江戸時代に黒田藩の藩医として召し抱えられてから、代々「原三信」を襲名する中で医院を開業し、「医家」の伝統を継承して144周年を迎える了。泌尿器科中心の病院から始まり、現在も歴史を紡ぐ病院です。地域の役に立つ民間病院であるべく、質の高い医療、アメニティーの向上、心のこもったサービスの実践を全力で追求しています。

医療に携わる人間として「病める人への思いやりの心」はこれまで以上に大切になっていると考えます。「病人のための病院」という理念のもと、一人ひとりに寄り添って、常に適切な医療を提供できる病院でありたいと思っています。

医療法人 原三信病院
理事長 平 祐二
院長 原 直彦
〒812-0033 福岡市博多区大博町1-8
TEL:092-291-3434 FAX:092-291-3424



OBの紹介

今回紹介するOB研修生は、2年前に帰国した斐济のパウさんです。パウさんは、いつも明るくまじめで頼りがいのある研修生でした。コロナ禍で研修生が入国できない状況の中で、いち早く1年間の研修延長を了解してくれて、その時は大変助かりました。頼りがいのあるパウさん、恐らく斐济の彼の村でも村の人たちからあつい信頼を受けて活躍していることでしょう。

◆国に帰ってから今まで何をしてきましたか?

去年は、オイスカ斐济センターで3ヶ月間ボランティアをして畠の手伝いをしました。

その後は、村で自分の畠をつくり、タロイモやカバ、キャサバの栽培やスイカなどのモデル栽培をしました。そして、村の若い人たちに有機農業を教えました。

今の仕事も農業が中心で、チンゲンサイやタロイモなどいろいろな野菜を栽培しています。

斐济では機械がなく、マーケットも遠いのでとても大変です。

◆日本の食べ物で何が一番好きですか?

日本の食べ物は全部美味しかったです。一番美味しかったのは巻きずしとうどんです。

◆これからの方のプランは何ですか?

これからは、私の畠でショウガやスイカの栽培をもっと増やして、がんばりたいです。そして、今いろいろな村の人が私の畠に来て、有機農業について教えてほしいとお願いされます。これからもたくさん的人に有機農業をおしえてあげたいと思います。



研修生時代のパウさん